

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（保護者）94%	生徒指導課 生徒会、部活動等で「あいさつ運動」を継続的に取り組んできた結果、概ね例年通りの数値を維持している。今後、さらに意識を高め、進路実現につながるよう指導していく。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）97%	生徒指導課 真夏・真冬の期間に校舎内の暑さ・寒さから服装が乱れがちなので、柔軟に対策を許可しつつ、けじめのある服装となるよう指導していくことが課題である。また、頭髪規定について、全国的に緩和の方向であるが、本校においても本校の特性を踏まえつつ見直していく必要がある。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均値と比べて、変化率が A 15%以上の減少である。 B 15%未満～5%以上の減少である。 C 5%未満の減少～5%未満の増加である。 D 5%以上の増加である。	A 12月集計で過去5年間の平均値より 18.8%（141件）の減少 *H29～R3の平均	生徒指導課 コロナ関連の遅刻・欠席手続きも定着し、登校に関して「時間にけじめをもった学校生活」を送るよう、職員全体で指導した結果、コロナ前の数値に戻りつつある。時間を守る習慣が身につくよう継続的に指導することはもちろんだが、体調が悪く、遅れた時の手続きをしっかりと行えるよう、より指導を徹底していきたい。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	積極的に校内清掃や教室内の整理整頓に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	C 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）85%	保健環境課 7月アンケート（87%）から2%減少した。教室は概ねきれいに清掃されているが、その他の箇所について、清掃が行きとどかない時が見受けられる。改善のためには、職員全員で根気よく学校美化の意義について指導・助言を徹底する必要がある。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）86%	教育相談課 7月から3%増えた。人間関係に不安を抱いていても、自分から進んで相談する生徒は少ないように思われる。そこで、こまめに声をかけ、面談を行ってきたことがこの結果につながったと思われる。今後も、生徒への声かけを行い、生徒の声に耳を傾け、不安なく生活できるように支援していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・学年差異はあるが、昨年度に比べて遅刻が減少している。今後も時間にけじめを持った学校生活を送るよう指導してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・休みがちな生徒には、担任、部顧問や教育相談と連携して本人、保護者とこまめに連絡をとり、組織的に対応していく。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。(わかる授業の実践、GIGAスクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上)	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 12月の生徒による授業評価では 94%	教務課 授業を受けて「わかった」と感じる生徒が増加した。授業改善が良い結果となっている。今後も授業の内容や難易度の調整を各教科で検討・実施していく。また多くの教員が一人一台端末を効果的に活用していることも高評価の要因と考えられる。今後も授業力向上に努め、生徒の学力向上からの進路実現につなげていく。
	② GIGAスクール構想の推進を図る。	1日に2回以上、生徒に対しクロームブックを使って活動した教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	D 12月の教育活動に関するアンケート(教職員)36%	教務課 アンケート結果から教員がChromeBookを活用する機会が少しずつ増えている。授業での利用については今後さらに機会を広げ、授業改善と合わせて活用する場面の設定を研究する必要がある。また校内研修を通じて教員の利用スキル向上に努めていきたい。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C 6月のスポーツテストの結果では 61%	体育管理課 昨年度と比較し、減少傾向にあるが、学年によっては体力合計点が高い学年もあり、改善傾向が見られる。また、体力合計点から高いグループと低いグループの2極化が進んでいることも伺える。コロナ禍で運動部に入っていない生徒の運動機会が減ったことも要因であると考えられる。体育の授業を中心に、体力アップに努めていきたい。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 就職内定 98% 進学内定 98% 全体(1/11現在) 98%	進路指導課 昨年よりも内定率は上がっているが、卒業生数が昨年より減っているので、成果としては昨年並みである。本年は求人数が大幅に増え、就職に関してはほぼ生徒の希望に沿ったものとなった。公務員・進学に関しては、学力が合格水準に達していない生徒が多く、次年度以降の指導体制見直しを進め、取り組みの工夫を考えていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・多くの教員が一人一台端末を効果的に活用することが授業の高評価につながっている。個々の生徒に応じた学習内容を提供することで学習意欲を高めてほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・授業での一人一台端末の活用法を今後も探究しながら、生徒の興味や関心を引き出すとともに効果的な学習スタイルや支援の方法を工夫していきたい。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	B 7部出場（男女柔道、ウエトリテイング、射撃部、ボート、女子バスケ、なぎなた）	体育管理課 本校より7部が全国大会に出場できた。特に柔道女子は団体5位、個人5位に入賞し、各部の励みとなった。限られた時間を工夫して効率よく取り組んだ成果がでた。今後も感染症対策を徹底し、質の高い部活動運営を実現させる。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）79%	体育管理課 コロナ等の影響で、臨時休業や活動の制限が度々あった。練習計画の見直しや再調整を余儀なくされてしまった。大きなダメージは回避できたと考えるが、本来の計画通りの実施は難しかった。しかし、多くの大会が開催されたことで生徒のモチベーションや達成感に寄与したと考える。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）80%	生徒会課 前期に比べて、後期は文化祭・体育祭など生徒主体の活動が多くあったことや、コロナ以降初めて模擬店が復活したことも結果的にポイントが上がった要因だと思われる。しかし、津幡高校の生徒会行事＝生徒主体の活動の場という感じではまだないので、来年度以降の課題だと思われる。
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）55%	生徒会課 9月のあいさつ運動コンテスト＝ボランティア活動ということ、生徒に周知できなかったことが結果に大きく影響していると思われる。来年度こそ生徒自身がボランティアをしたという実感が持てるように発信していきたい。
	⑤ 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（保護者）87%	総務課 昨年度と比較すると2%upし、同様のA判定の結果となった。今後も学校活動の様子や部活動や生徒会活動の様子を随時情報発信をし、保護者に学校の理解を深めてもらう機会としていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・進路状況では、有名大学に進学している生徒もいる。進学先をもっとPRすることによって生徒募集につながることもある。学校生活の様子や活躍はもちろんだが、進学先や就職先についてもっと多くの人に伝わる工夫をしてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・学校説明会の本校以外の施設での開催や中学校に出向いての説明会等で、本校の進学・就職状況を更にアピールしたい。また、本校ホームページより学校の様子や活躍の更新頻度をさらに加速させていきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	<p>月80時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が</p> <p>A 0人である。</p> <p>B (月数×1人)以下である。</p> <p>C (月数×2人)以下である。</p> <p>D Cを上回る。</p>	<p>D</p> <p>12月までの9ヶ月で時間外勤務80時間を超える延べ人数が 24人</p>	<p>R4年度7月までは16人だったが、12月までで24人となった。R3年度の集計値26人と比べるとほぼ横ばいだが、コロナ禍以前の集計値からは減少しており、校務の効率化が学校全体として浸透してきていることが確認できる。80時間を超える勤務については、部活動における県外大会への参加等もあり難しい面もあるが、今後も削減を検討していかねばならない。</p>
		<p>(全教員)タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が</p> <p>A 80%以上である。</p> <p>B 70%以上である。</p> <p>C 60%以上である。</p> <p>D 60%未満である。</p>	<p>A</p> <p>12月の教育活動に関するアンケート(教職員) 91%</p>	<p>中間評価の数値は76%だったが、今回は91%となり、働き方改革は職員にかなり浸透している。多くの職員が仕事の効率化を意識していることが数値からうかがえる。しかし、運動部顧問や一部の教職員においては、大会等への参加、強化育成が最優先となっており、スタイルを変更しがたい状況も見受けられる。今後も働き方の意識の醸成と環境の整備に取り組んでいきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・部活動では全国大会に7つの部が出場しており、その活躍はすばらしい。教職員の熱意と努力の成果である。働き方改革を考慮して、仕事の効率化に取り組み、質の高い教育を継続してほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・部活動指導を含めて学校の教育活動全般について職員の仕事の効率化を意識しながら、できることを共有してひとつひとつ着実に実行していきたい。</p>			